

京都市社会福祉法人等役員研修会 2026年



サステイナブルなひと、
生活クラブ

地域のたすけあい活動拠点の社会的実験

誰も孤立することのないまちづくりをめざして



生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ

理事長 山路 容子

● 生活クラブ は、生協のひとつです。

● 生協は、正式には「消費生活協同組合」といいます。

● 生活全般にかかわる生活者（組合員）の非営利事業を行う組織です。

（最大奉仕の原則）

第九条 組合は、その行う事業によつて、その組合員及び会員（以下「組合員」と総称する。）に最大の奉仕をすることを目的とし、営利を目的としてその事業を行つてはならない。

消費生活協同組合法より抜粋

● 農業協同組合（JA） 漁業協同組合（JF） などと同じ協同組合の仲間です。

協同組合は、人びとの自治的な組織であり、自発的に手を結んだ人びとが、共同で所有し民主的に管理する事業体をつうじて、共通の経済的、社会的、文化的ニーズと願いをかなえることを目的とする。

協同組合の定義（「協同組合アイデンティティに関するICA声明 1995年 日本協同組合学会訳）

● 多様な生協があります。

京都府内だけでも、約20の生協があり、約111万5000世帯が加入していますが、それぞれ別法人（単位生協）になりますが、京都府内生協の連合体を構成しています（京都府生活協同組合連合会）。

地域生協

- ・ 京都生協
- ・ 生協生活クラブ京都エル・コープ
- ・ 生協コープ自然派京都

共済生協

大学生協

職域生協

高齢者生協

医療生協

京都府生協連

● 全国に33の生活クラブ生協があり、生活クラブ連合会を構成
およそ43万世帯が加入

● 京都エル・コープは1993年設立
2007年に生活クラブ連合会に加入
2025年度末現在 約6600世帯の組合員



2. 生活クラブの紹介 (2) 生活クラブ京都の組織概要

●生活クラブ京都エル・コープの組織概要

| | | |
|-------|---------------------------------|---|
| 1993年 | 設立認可 | 生活協同組合エル・コープとして発足 |
| 2007年 | 生活クラブ連合会加入 | 生活クラブ京都エル・コープに名称変更 |
| 2015年 | 生活クラブでんきの供給開始 | 自分たちで作り出した自然エネルギー中心の電気を、組合員・生活クラブ事業所等に供給 |
| 2025年 | 介護保険事業の開始 たすけあい活動スペースりんく・る竣工 | 訪問介護・居宅介護支援事業の指定を受ける 集いのひろばの受託、W.Coによるカフェ、食事サービス事業、居場所づくりを開始 |

| 2025年3月末現在 | |
|------------|---|
| 組合員数 | 6,475名 |
| 供給高 | 15億5,319万円 |
| 出資金 | 6億3,574万円 (組合員1人当たり平均出資額98,185円) |
| 役職員数 | 役員12名 (理事10名 監事2名) 職員40名 |
| 事業所数 | 4か所 上鳥羽センター (本部・配送) 山科センター (配送) たすけあい活動スペースりんく・る、一乗寺くらぶルーム |

● 生活クラブってなに？

提携してもらえる生産者・関係者



組合員

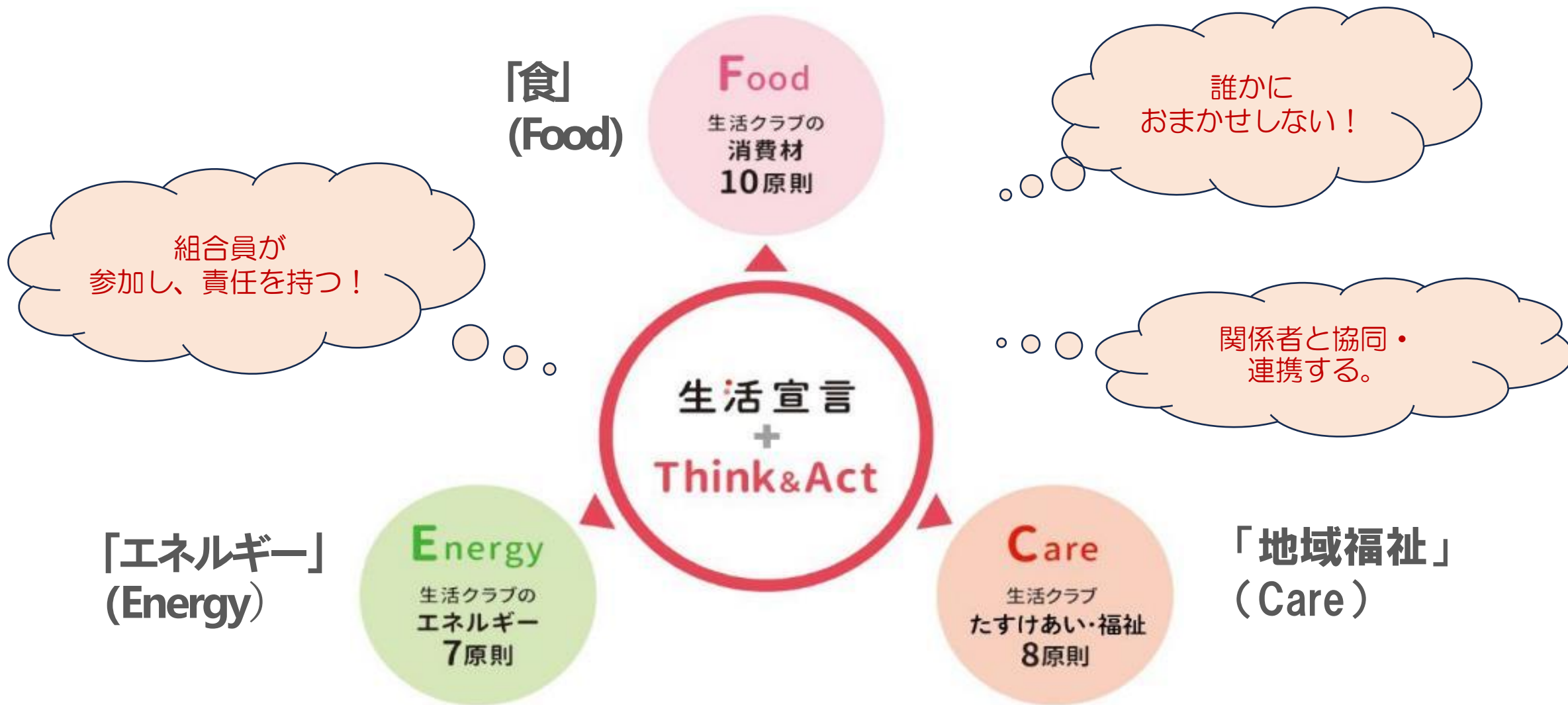
あったらいいな



…を、カタチに！



● 生活クラブが取組んできた3つの領域



● 生活クラブが大切にしてきたこと

生活することは未来をつくること。

生活宣言

(ブランド・ステイトメント)

生活することは、未来をつくること。

私たちが、何を選択し、どのように生産し消費するか、という生活のかたちは、子どもたちの未来へとつながっています。

だから、私たちは「サステイナブル（持続可能）な生活」を選びます。

消費者と生産者が「生活する者」として手を取りあい、食べもの、エネルギー、たすけあい・福祉のしくみを自給・循環させていきます。

つながりを深めて身近な地域を豊かにし、結びつきを大きくひろげます。

共生と非戦の立場を貫き、すべての活動をすすめます。



子どもや孫の未来を考えるから持続可能な消費や社会を考えます。

「どんな地域をつくるのか？」は、子どもや孫の未来をつくること。

自分たちの生活のことは自分たちで考え、行動し生活を自治する。

＝サービス提供ではなく、自分たちで参加してつくり、つかう。

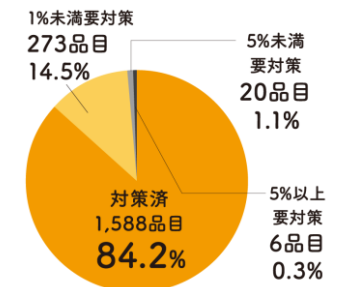
2. 生活クラブの紹介 (6) 食の取組み



食の共同購入運動を通じて食の課題解決



- 第1原則 安全性を追求します。
- 第2原則 遺伝子操作された原材料は受け入れません。
- 第3原則 国内の自給力を高めます。
- 第4原則 公正で責任ある原材料の調達をめざします。
- 第5原則 素材本来の味を大切にします。
- 第6原則 有害化学物質を削減します。
- 第7原則 3Rを推進し、さらなる資源循環をすすめます。
- 第8原則 温室効果ガスの排出削減をすすめます。
- 第9原則 積極的に情報を開示します。
- 第10原則 独自基準を定め、自主的な管理をすすめます。

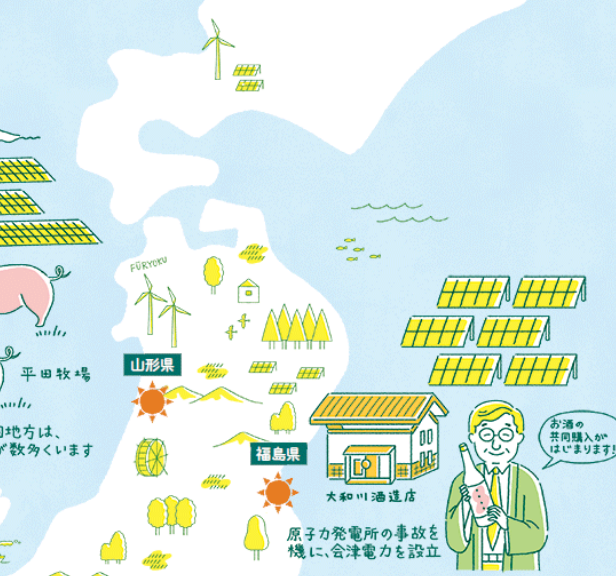


自然エネルギー100%をめざして 「でんき」で広がる、想いがつながる

生活クラブの
提携産地で
つくる電気



太陽光発電所のある庄内地方は、
生活クラブの提携生産者が数多くいます



地域の
資源で
つくる電気

組合員が
中心となり
つくる電気

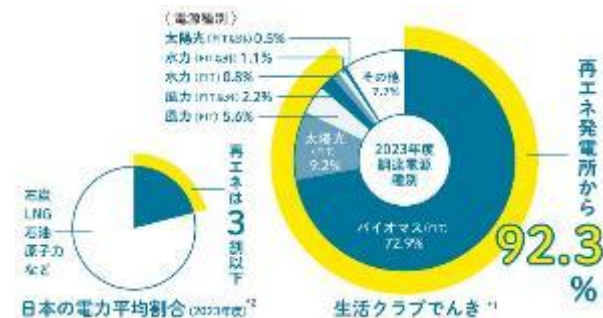


住吉川小水力発電所を
実現する会のみなさん

六甲山地から流れる
住吉川流域は、
水のエネルギーを利用した
産業が盛んな土地

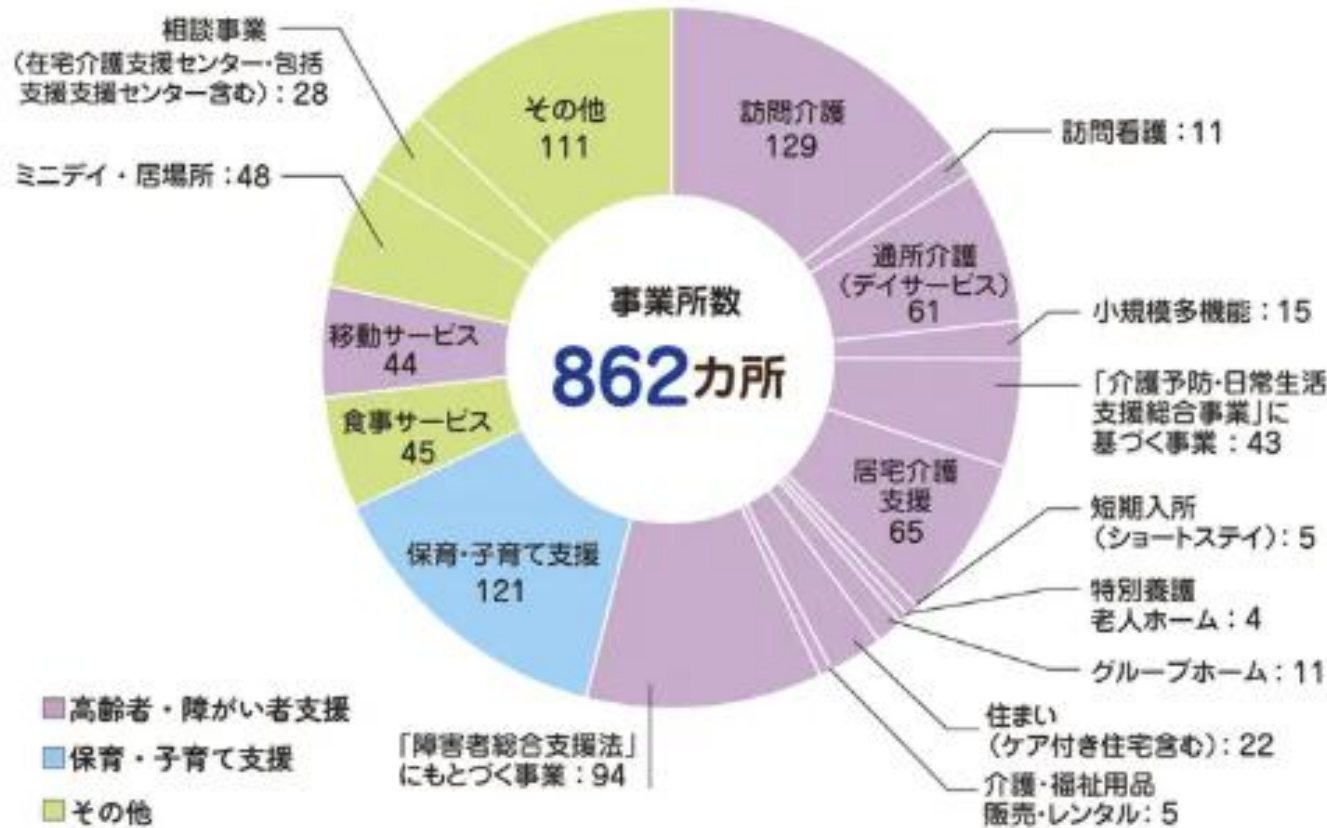
生活クラブのエネルギー7原則

1. 省エネルギーを柱とします。
2. 原発のない社会、CO2を減らせる社会をつくりまます。
3. 地域への貢献と自然環境に留意した発電事業をすすめます。
4. 電気の価格や送配電のしくみを明らかにします。
5. 生活クラブの提携産地との連携を深め、エネルギー自給率を高めます。
6. エシカルコンシューマーとして、再生可能エネルギーによる電気を積極的に共同購入します。
7. 生産から廃棄までトータルで責任を持ちます。



2. 生活クラブの紹介 (8) 地域福祉の取組み

生活クラブグループの福祉事業所



※地域数=事業所が立地する自治体数(市区町村)

生活クラブ発の3つの
社会福祉法人

- 社会福祉法人悠遊(東京)
- 社会福祉法人生活クラブ(千葉)
- 社会福祉法人いきいき福祉会(神奈川)

生活クラブの福祉・たすけあい8原則

誰もが当事者として自己決定にもとづいて生きるしるみを積み重ねてきたことが生活クラブの誇るべき特長です。この強みを各地の生活クラブ、運動グループ、提携生産者が共有し、その地域に必要な機能を描き、「福祉の自給ネットワークづくり」をめざして、「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」を定めます。

1 多様性

一人ひとりがちがいを認めあひながら、対等につながり、よるこびを分かち合える社会をめざします。
社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)、性差や年齢、特徴にかかわらず、誰もが潜在能力を発揮でき、出逢をもってつながりあう社会をめざし、サステイナブル(持続可能性)に取り組みます。

2 尊厳の尊重

生まれた時から最期の一日まで、誰もがその人らしく安心して暮らせる地域をつくります。
その人がどういう暮らしを望んでいるのか、この先の人生をどう過ごしていきたいのか、それをよく理解して、大切にしたい。学び、住まい、居場所がある安心の地域づくりをすすめます。住みなれた地域で最期まで自分らしく生きるために。

3 参加型社会

子育て、介護、社会的孤立を地域全体の課題と考え、お互いにたすけあひあう参加型のしくみをつくります。
コミュニティ中心の参加型社会は、人びとが、自分たち自身の誇りをもって生きる基盤につながります。共通や寄り、お陰に託して参加するたすけあひです。

4 働きがいのある人間らしい仕事

生活と仕事が調和し、社会を豊かにする多様な働き方・働く場をつくります。
安心して一生暮らしている、働きがい、やりがいを抱いたせ、自らの知識、能力、技能が活かせる仕事(ディーセントワーク)をめざします。だれもが仕事にアプローチできるしくみをつくります。

5 居場所づくり・役割づくり

あらゆる人が、心おだやかに楽しく過ごせる居場所づくり・役割づくりをすすめます。
地域や近隣の人との関わりをもつことで「ふれあい」が生まれます。誰もが誇り、元気で生きがいを持ち、住みなれた地域で、自分らしく暮らすことです。何歳でも再チャレンジできる社会づくりをめざします。

6 子育て支援

子どもが笑顔で暮らせるように、地域全体で、子ども支援・親支援に取り組めます。
子どもは生まれてくる環境を選べません。子どもたちが心身ともにすこやかに育つ社会、安心して子どもを生み育てることができる社会にしたい。

7 介護支援

介護する人・受ける人がどちらも、安心して毎日を過ごせるようサポートします。
介護生活、それは長い道だから…悩みを話し合い、人生最期の日まで尊厳をもてるようなケアをめざします。

8 社会的孤立への支援

貧困と孤立を見逃さず、寄り添い、伴走することで自立を後押しします。
人は生きていると、いろいろな困ったことに出会います。みんなであつたあつたことで、社会的孤立から救い出せます。

3. コロナ禍における支援活動 (1) 米の緊急支援

① 生活クラブ京都の米の緊急支援

「山科醍醐こどものひろば」「セカンドハーベスト京都」の2団体へ
・緊急支援米5kg250袋(1,250kg)を提供

② 利用高の1%を支援団体へ寄付する取組み (生活クラブ京都独自取組み)



問1-3. 今回、「あってよかった」食材は何ですか、またその理由も教えてください。

- ・お米が「すごく目かきました。いつもはあまり高いお米を買ってないの？」
- ・たくと子供たちが「いつもと違うね」と言っていました。

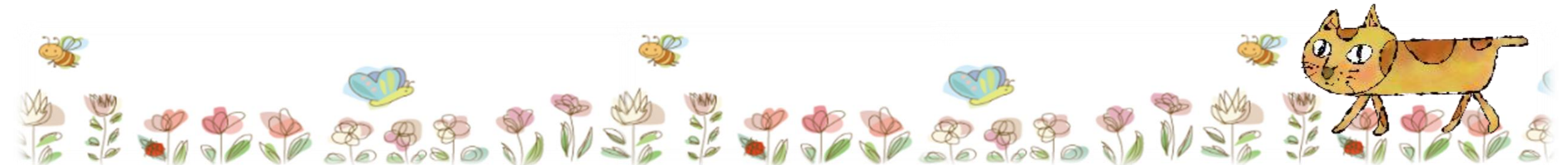
セカンドハーベスト京都へ米5kg150袋の寄贈

4. 福祉政策策定に向けて

生活クラブ連合会「生活クラブのすべての生協で福祉事業の立ち上げを」方針化

生活クラブ京都では、配送センターの移転が必要。
跡地・建物をどう活用する？！

地域政策（＝福祉政策）をつくろう。



(1) ニーズ調査アンケートから

老後の問題で困っていること、あったらいいなと思うこと。

就労の場の提供 家事サービス 配食サービス

自宅に暮らし続ける介護サービス
(買い物・家事・通院介助)(低料金)

何か得意分野を持たれている方（楽器や大工仕事等）に1日でもいいので子どもたちが体験させていただければ、つながりができるのではないのでしょうか（メンコ、けん玉などの昔遊びも）

色々講演会の開催。生活クラブ京都のカフェを作る。ボランティアへの参加。

老後の資金 老後の生活の情報、相談

自分が孤独で寂しいかと思うので、若いお母さんの食事作りや託児で赤ちゃんと触れ合えたらうれしいかも

配達時の安否確認や健康チェック

男の人のための初歩からの料理講座

若い世代の活動する活気が感じられ時に言葉も交わせるようなところで高齢者も過ごせる
そういう場所が地域に欲しい。

生活クラブには介護サービス(家事援助)の提供を期待しています。単に自宅に住み続けられるだけでなく、これまでの生活を出来るだけ維持できることを望む方は少なくないのではと思います。例えば自分で使った事の無いから洗濯の液体せっけんを合成洗剤に変えてほしい等の希望を出せるヘルパーさんがおられます。生活クラブの消費材を使い慣れたヘルパーさんがいてくださればとても心強いです。最期まで生活クラブの消費材を使い続けられる介護の提供を期待します。

(1) ニーズ調査アンケートから

子育ての問題で困っていること、あったらいいなと思うこと。

放課後の子どもの居場所づくり

横のつながりが欲しいと思う。同世代の方が近くにいるのかわからないので、昨年引っ越してきたばかりで土地勘がついていなくて。たすけが欲しい時に助けてくれる人がいません。今、人脈作りがしにくい社会になっている。

子育て中親子が集えるひろば

子どもの居場所づくり

安心安全な『食』を真ん中に多世代が交流でき、かつ安価（もしくは無料）で利用できると思います。

長期休暇中の学童への送迎

働くママの手伝いをいろんな面からサポートできればと思う。

生活クラブの保育園が開園されたという知らせには驚きました。とても良い取り組みだと思います。我が家が必要というのではなく、子供たちの為に子供食堂なんかも取り組みがあれば。

放課後や仕事をもっているお母さんの助けになる様なサポートがあれば。

乳幼児の一時預かり。組合員の人利用できる保育園。ママさんサークル。

まさに今が“孤育て中”なので組合員で孤育て中の同世代の仲間が欲しい。社会問題に関して意識が同じ世代の方に出会う機会が欲しいです。

病児保育を病院の先生と保育士とが協力して出来る体制が整うといいです。

仕事、息抜き、美容院等、どんな理由でも気軽に預けられる 場所があればよい

(1) ニーズ調査アンケートから 障がいの問題で困っていること、あったらいいなと思うこと。

障がいのない子供との関わりが欲しいと思います。対応の仕方を分かってもらいたいし、特別でなく色々ある違いに出会いわかり合いたいかな。自分の子にも早いうちに、出会いが欲しいと思っています。

①働く場所が欲しい。②住めるところが欲しい。
③相談にのってくれる場が欲しい。④食事の援助
(バランスの良い食事)

自立の訓練中。親以外に相談出来る人や場所がほしい。

子どもが知的障害があるので親がいなくなった時の将来に不安があります。

自立の困難の子供の適切な就労。

就労支援とそのための技能習得が必要

児童デイサービス

家族以外で支えることの出来る人の繋がり場所が、小さい所から大きな所まで沢山のニーズが必要なのではないでしょうか。

学習障害に関して、世間に知識が少ない、ちゃんと理解していない。

居場所、活躍の場

簡単な作業で働ける場所がたくさんあればいいなと思います。

(2) アンケートから見えてきた組合員の意識 (2016年)

① 経済的な不安

老後のお金 学費や子育てのお金 家計管理ができるか

② 健康への不安

介護が必要になったら いつまで健康でいられるか 食生活が不安

③ 孤立への不安

高齢单身になったら 子育てで孤立感 地域のつながりが無い

不安は、誰かと関わり、情報を得て、相談やサポートがあることで和らげることができます。



地域の中で出会い、つながる場があったらいいな→

困ったとき情報が得られて、相談できる場があったらいいな→

福祉制度ではできない暮らしのサポートがあったらいいな→



居場所機能

相談機能

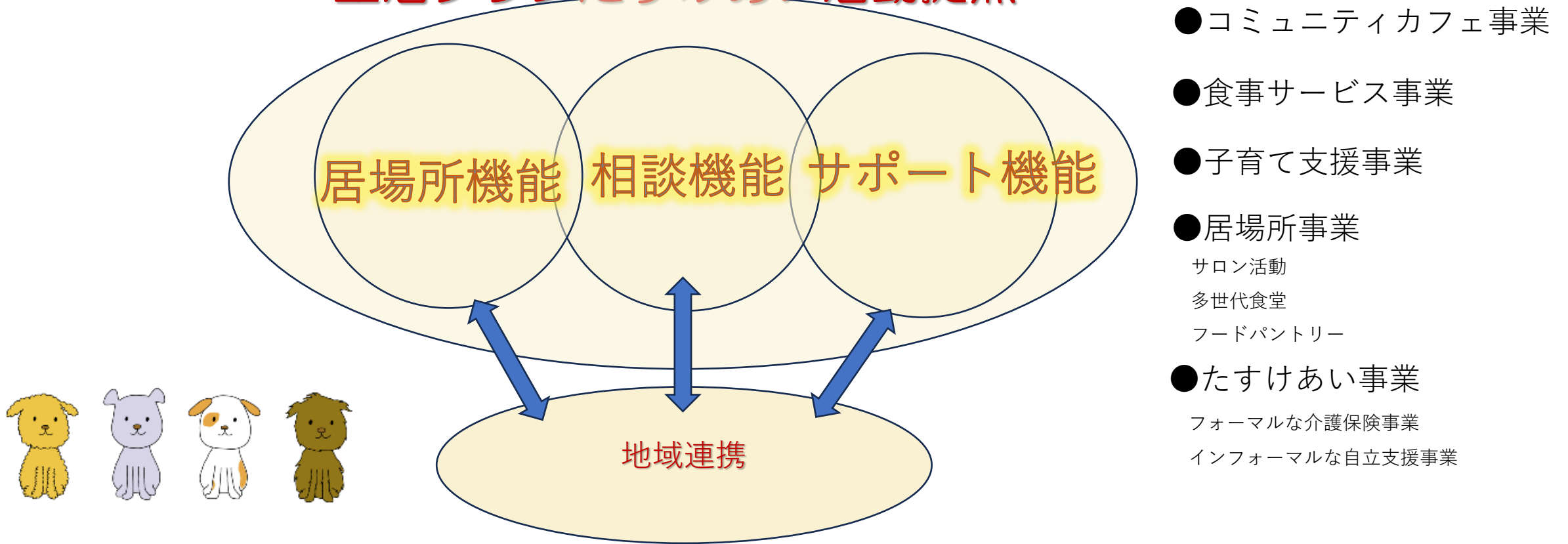
サポート機能

これらの機能を**働く場**として事業化できないか？→お金の安心、社会との関わり、居場所にもなる

(3) 福祉政策「子どもをまん中においた共生のまちづくり」(2023年)

誰ひとり取り残さない、孤立するひとがでないように、ゆるやかなつながりづくりをはじめ

生活クラブたすけあい活動拠点



- 食を軸に、子どもから高齢の方までだれでもが、用事が無くても、いつでもふらっと立ち寄ることができる機能を持つことで、話してもいいし、話さなくてもいい。ゆるい顔見知りをちょっとでも多くつくることで、なにかできるサポートがあるかもしれない。地域の一人ひとりの参加型でつくれたらな。

(5) 地域の関係各機関の課題認識

南区役所健康長寿推進課、南区社会福祉協議会、久世地域包括支援センター、久世西児童館、障害福祉センター、生活クラブでそれぞれの地域課題とあったらいいなを出し合い、ネットワークづくりに向けた会議を開催。

◆こどもや高齢者、障がいを抱える方などの違いを超えて、孤立や孤独の問題があり、居場所の必要性は共通の課題認識

◆地域に集まれる場、高齢男性向けの料理教室をしたり、地域の企画をするときに集まれるキッチンもある拠点があればいいな。

◆介護予防の意味でも元気な高齢者が活躍する場や障がいを抱えていても働ける場が必要

◆子育て世代の孤立が心配される。ひとり親も増加している。こどもが多く、児童館の学童保育は満杯状態で狭い。夏休みのこどもの昼食の確保が必要。

2023年9/26生活クラブ西センター会議室で開催された地域の関係団体との意見交換会の様子。



4. 福祉政策策定に向けて (6) 拠点の基本方針

(6) 拠点の基本方針 「地域政策実行策に基づいた西センター活用の基本構想」より

①地域に開かれた拠点

「誰も取り残さない」子どもをまん中においた共生のまちづくりをすすめる、地域に開かれた福祉たすけあい活動拠点とします。

②参加型たすけあい活動の拠点

参加型ですすめる福祉たすけあい活動の実践の場とします。

③多世代交流できる拠点

子ども若者をまん中にしながら、地域の多世代交流の場をつくっていきます。

④地域連携を図る拠点

地域の人とひとのネットワークを広げ、多様な支援団体と連携をすすめて、たくさんの機能を生み出し、地域に必要な相談・サポート機能をつくりだす場とします。

⑤地域課題の解決力を高める拠点

実践を通じて生活クラブの仲間を増やし、地域の問題解決力を高めていく場とします。

5. 福祉政策と地域拠点構想

生活クラブの福祉複合施設 2025年3月竣工

たすけあい活動スペースりんく・る

1階

訪問介護／居宅介護支援事業所 生協事業 2025年4月

未定（働く場スペース?）

みんなの台所「ぐるり」 弁当・総菜の販売 2025年6月

とめおきワーカーズ「MOMO」

居場所スペース

カフェ+コミュニティ
「Cafe+Meets」

2025年5月



あってよかった！

組合員だけでなく、
地域の人たちの暮らしに

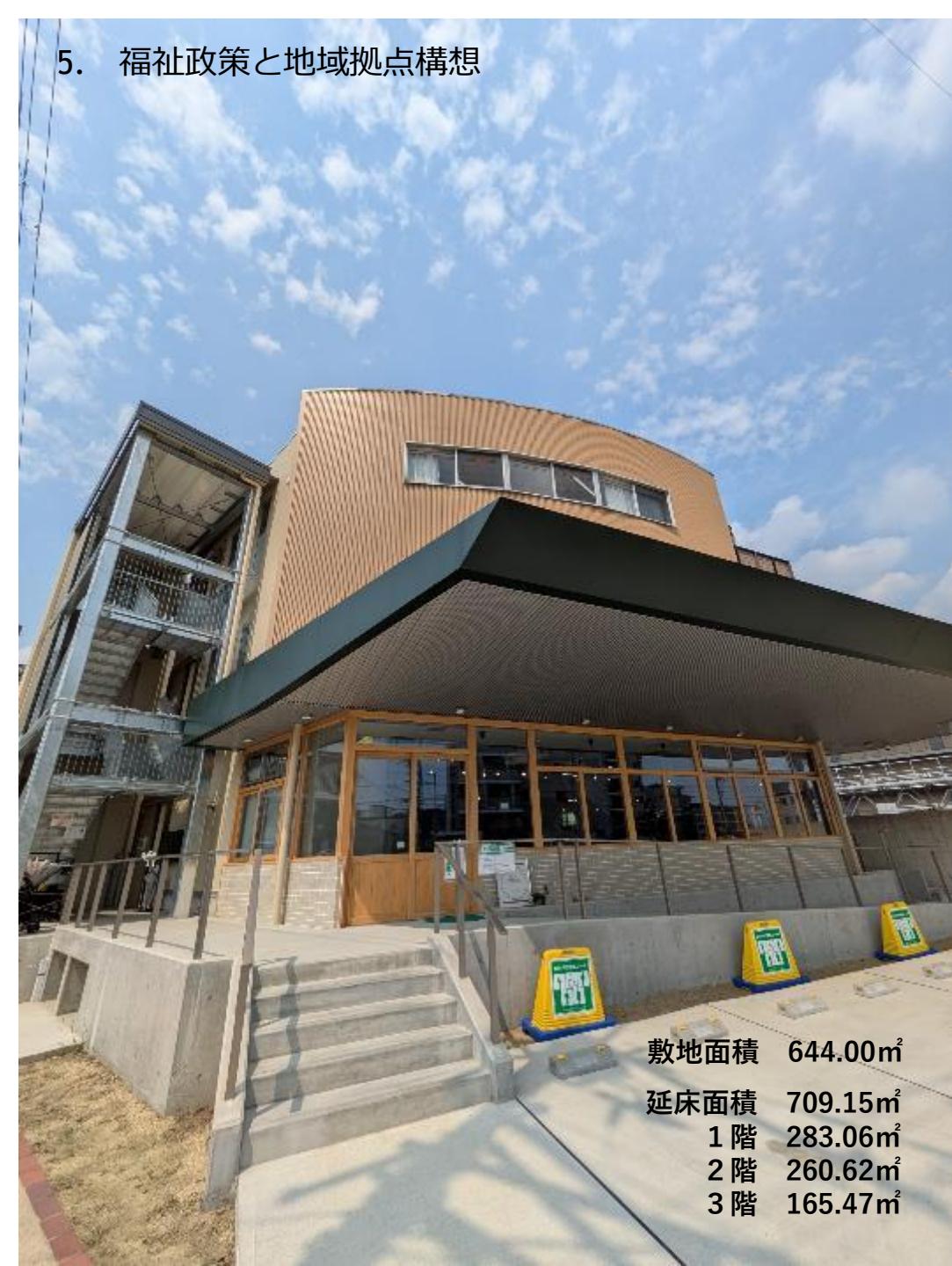
敷地面積 644.00㎡

延床面積 709.15㎡

1階 283.06㎡

2階 260.62㎡

3階 165.47㎡



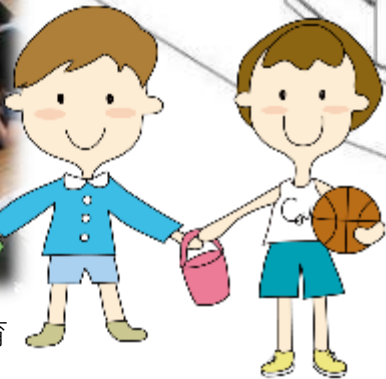
たすけあい活動スペースりんく・る 2階

久世西児童館分室 学童クラブ 2025年4月
京都市への場所貸し 運営は指定管理団体の社会福祉法人

桂川乳幼児親子のつどいの広場
もこもこ 2025年3月
生活クラブの事業として京都市から受託



児童館の分室として学童保育



5. 福祉政策と地域拠点構想

たすけあい活動スペースりんく・る 3階



地域の方の参加
で健康測定活動



地域の方の参加
で健康体操



地域の自治会の方
も参加して救命救急講習



6. 地域拠点の取組みと今後の計画 (1) 生協受託事業

桂川乳幼児親子の
つどいの広場 もこもこ

2025年度のべ参加者9,856名
1日平均40.9人の親子の参加
年間で175件の子育て相談を
受けました。

週5日 日曜～金曜
10:00～16:00開所



近隣のつどいの広場と
のコラボ企画も実施



生協と個々の雇用契約を締結した保育スタッフがワーカーズ・コレクティブを構成しています。集いのひろば運営については、生協事務局が管理します。

6. 地域拠点の取組みと今後の計画 (2) 生協事業

介護保険事業 生活クラブ訪問介護まんまる／生活クラブケアプランセンターさざなみ

生活クラブ京都の福祉担当部署「福祉たすけあい事業部」のもとに介護保険事業所

介護保険事業参入ありきではなく、地域で孤立する人をつくらないまちづくりに必要な機能を考え
ている中で、サポート機能のひとつとしての介護保険事業に取り組むことになりました。



- ①住み慣れた自宅で尊厳をもって過ごすことができる居宅介護をベースに、生活クラブらしい一人ひとりに寄り添ったケアを提供する
尊厳をもって、自分らしく、自宅で暮らし続けられる
「生活クラブ10の基本ケア」の実践
- ②自分たちで事業をすることで、自分たち自身で福祉のあり方を考え、
カタチにする参加型福祉の実践をすすめる

将来、自分や家族が受けたいと思うケアはどんなケアですか？
一緒に実現していきましょうと組合員や地域の方に呼びかけ

6. 地域拠点の取組みと今後の計画 (3) ワーカーズ・コレクティブ (W.Co) 事業

みんなの台所 ぐるり W.Coぐるりの運営

食事サービス事業 弁当・総菜の製造・販売
地域の食のサポート機能

児童館とコラボして、
希望者に夏休みの学童
の子ども達のお昼弁当
を提供



6. 地域拠点の取組みと今後の計画 (3) ワーカーズ・コレクティブ事業

Cafe+Meets W.Co Katsurallyの運営

コミュニティカフェ事業 飲食の提供
地域のコミュニティ機能

ランチやスイーツの
提供のほか、ライブ
や映画上映会なども
開催



ワーカーズ・コレクティブって何？

働く人の協同組合

性別、年齢、ライフスタイル、国籍、障がいや働きにくさのあるなしなど、違いを認め合い、配慮し合って働きます。

出資

全員がオーナー

生活の課題解決

高齢になっても障がいがあっても、誰でも地域で豊かに暮らすために必要な、「あったらいいな」と思う、「モノ」や「サービス」を提供

誰も雇わず、誰にも雇われない

協同組合型の働き方です。

「一人一票の平等な権利と責任」

メンバー全員が一人一票の権利を持ち、対等・公平な組織運営と、経営に主体的に関わり責任を持って働きます。報酬は労働の対価として、全員で話し合って適正に分配します。

労働

支え合って
自分らしく働く

経営

地域のために
適正価格で

「地域社会への貢献」

地域の多様な「こまった」に応え、みんなが暮らしやすい地域社会をつくるために、人々が主体的、自発的に集まって始める非営利の市民事業です。

6. 地域拠点の取組みと今後の計画 (4) 地域貢献活動

居場所スペース(地域貢献活動)の活動の3つの柱 (生活クラブ組合員活動)

① 多様なサロン活動

地域資源を発掘し、地域の方が主体のサロン活動に

これまでは、ボードゲームの会、好きな本を持ち寄ってブックトーク、押し活トーク、手作業など楽しみながらわくわくWORKS、りんく・るのお庭造りなど実施

② 多世代食堂

多世代の方が参加し、緩やかにつながれる場に

「おひさま食堂」として月1回(第3日曜)30食で2025年9月より開催。

③ フードパントリー

現在、年度内開始を目標に計画中。

生活クラブの食の経験を活用し、食に困っている世帯への食のサポートを計画中



6. 地域拠点の取組みと今後の計画



2025年9月より
月1回第3日曜に
30食を提供

多世代食堂の開催



近くのグループ
ホームの利用者
さんと職員さん
も参加



6. 地域拠点の取組みと今後の計画 (5) 多様な機能の創出

「りんく・る」の多様な機能の創出にむけて

1. 多様な関係機関、団体との連携

① 近隣の認知症型グループホーム運営法人との連携

- 救命救急講習企画
グループホーム職員、地域の自治会の皆さま、りんく・るスタッフ
- 多世代食堂への参加
グループホームの利用者さんと職員さんが、多世代食堂に参加
- 地域の方を対象に認知症を理解する講習会
6月から3回の予定で認知症サポーター養成講座を実施
将来的に「ケアラズカフェ」「注文を間違える食堂」などへの展開を展望

② 健康測定活動を地域の医療法人の介護事業部と実施

- 健康測定をもとに、運動・口腔ケア・栄養指導などを通じてフレイル予防
3階ホールを活用して、地域の高齢者が気軽に集える場に

③ 他団体の視察と交流

- 立命館大学YCARP（子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト）の6名が
2025年6月に視察に来られ、「りんく・る」のもつ可能性について意見交換をしました。

- 京都市ユースサービス協会、地域のフリースクールの運営団体、就労継続支援事業所の方など、形を具体化することはこれからの課題ですが、一緒に連携を模索する可能性を感じています。

みんながケアし、ケアされ、たすけあって生きていくうえで必要な機能をカタチにしつつ、相互の機能が連携し合い、連動することで地域の多様な「あったらいいな」をカタチにしていきたい。

3. 子育て支援 (子育て支援W.Coとしての取組み)

- 子育て支援スペースでは、不登校の保護者の交流会を実施。
- 子育てからのレスパイトのために、認可外保育として一時預りを6月より実施予定。

4. 未活用厨房施設の構想

働きづらさ、生きづらさを抱えていたり、高齢者やシングルマザーなどの方が働ける場として事業展開して活用していく計画。



7. ケアに満ちたまちづくりに向けて

「生活をまるごと支えあい」 = 広いケアの視点

初めての福祉事業に取り組んで、感じたこと

- あたりまえのことだけど…人は、社会的な関係性の中でしか生きていけない
- 誰もがケアを受けて生きている。 いつも着る服を洗濯して、たたんでくれたのは誰？
登下校の安全を見守ってくれているのは誰？
- 誰もがケアをしている。 いつも元気に遊んで、地域のひとに元気を与えているのは誰？
元気に遊べなくても、生きる意味を教えてくれているのは誰？
- 生活の課題を、家庭だけの問題にしない
- だから、地域で多様な機能が働いてこそ、安心して暮らしていける… **ケアに満ちたまち**
- 地域にはいろんな機能が既に存在している。しかし、繋がれていない。”場“ ”空間“がポイントと実感
- どれも欠かせない、いろんな機能が連携して、包括的に機能してこそ
- ひとつの事業所でできないことは当然山ほどある。だからこそ、関係機関や社会福祉法人、医療法人のみならず、協同組合や地域資源と連携し、ケアに満ちたまちづくりを「拠点」をベースに

7. ケアに満ちたまちづくりに向けて

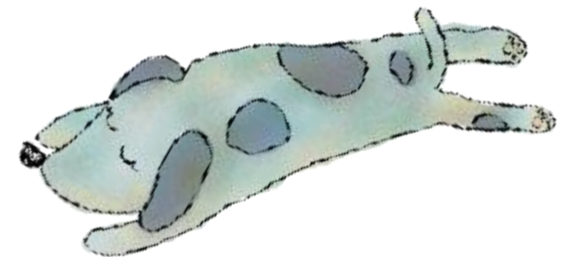
ケアに満ちた「まちづくり」をめざして拠点の活用を

ケアに満ちた、たすけあいのまちづくり。

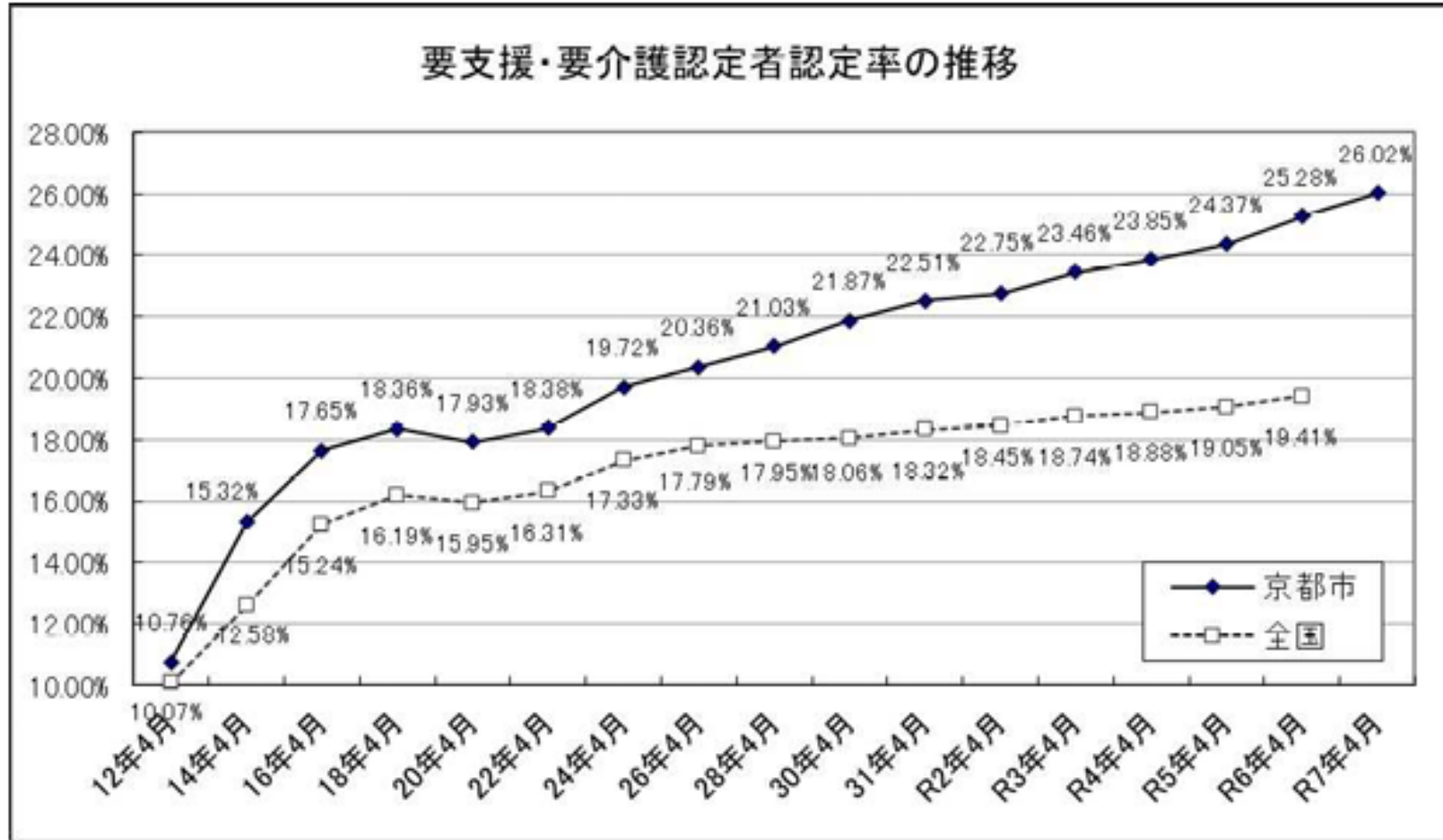
● ケアは、生きていくうえで誰にも欠かせない大切なもの。

気づかい合い、ちょっとだけ思いやることがケアの根底にあるとすれば、家族の枠を超えてケアし、ケアされ生きていくことができるまちになればいいな。

● 誰も孤立しない、ケアする人もケアされる人も自分らしく、尊厳をもって住み慣れた自宅で暮らし続けられるよう、ケアに満ちた、たすけあいのまちづくりを地域資源を活用し、連携していく社会的実験に「りんく・る」が活用できればいいな。



7. ケアに満ちたまちづくりに向けて



全国平均の要介護認定者の出現率（高齢者人口に占める割合）19.41%（令和6年4月末現在）と比較して、本市の出現率は高い。その要因として、単身の高齢者の割合が高いことなどが考えられる。



7. ケアに満ちたまちづくりに向けて

「ケアに満ちたまちづくり」と「社会的処方」

- 単身の高齢者の要介護度認定率が高いのであれば、なおのこと、高齢者が地域で孤立しない“生活まるごとささえあい”の取り組みが不可欠。
- 2040年には単身世帯は44%を占めると予測されている。社会的な孤立・孤独を防ぐための身近な居場所が多様であればいいな。
- 高齢者に限らず、生活課題を解決し、すべての人が自分らしく生きていくためにケアに満ちたまちづくり（ケア機能の連携）の実験になればと思います。



社会的処方

人とまちとのつながりで人が元気になる仕組み

「りんく・る」を使って、地域の中で、できるところから連携して、つながって、重層的に機能するまちづくりの社会的実験から、なにかカタチにできることがあればと考えています。



市民活動が
誰かの
薬になる
らしい。
それなら
100歳まで
生きて
みたい。
山崎 亮
コミュニケーションデザイナー
学芸出版社

7. ケアに満ちたまちづくりに向けて

展望と課題

「子どもをまん中に…」とは、未来に希望をもつこと。

そのためには、持続可能な＝サステイナブルである必要。⇒ お金と人材は必ずついて回る課題。

● 「りんく・る」の維持費をどのようにねん出していくのか？

- ・「りんく・る」建屋の改修費用の回収と維持費の捻出

賃料や委託費等で一部は充当できているが、すべては賄い切れていない。

→地域拠点の維持のために行政の支援を

● 地域貢献活動の活動費をどのようにねん出していくのか？

- ・組合員のたすけあい制度からたすけあい基金を作って活動費に充当、行政の助成金 すべては賄えない

● 地域資源・地域力をどのように引き出していくか？

- ・地域の潜在能力、資源を引き出し、地域住民の参画からエンパワメントを生み出す仕掛けは？

ご清聴ありがとうございました。

